

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26 (10)	利用者様1人1人がグループホームラルゴで生涯の生活をより良く充実したものになるよう、職員が御利用者様との十分な関わりを持ち介護計画やモニタリングに反映させる必要がある。	コロナ渦において、不自由な思いをしてみえる御利用者様の生活が少しでも安定し且楽しく暮らして行けるよう支援計画を作成して行く。	日々の関りだけでなく、担当職員がしっかりとモニタリングを行い、介護計画を立て、御利用者様の気持ちに寄り添って支援を行って行く。	12ヶ月
2	2 (2)	コロナ感染症の観点から、以前は行っていた事業所主催のイベントや地域の行事への参加が、全く出来なかった。今後は、感染の動向を確認しながら、再開の調整を勧めて行く。	御利用者様と地域の方との繋がりを切らず事無く、感染対策をしっかりと行い、再度事業所からの発信や提案を行って行く。	現状少しずつコロナ感染が減り制限も緩和されつつあるので様子を見ながら、外食にお連れしたり、地域の敬老会等への参加を検討して行く。	12ヶ月
3	20 (8)	コロナ感染のリスクがあった為、行動制限があり、御利用者様の精神的ストレスの負担が増している。	ガイドラインを作成し実施する事で、今まで行なえなかった面会や外出支援を実施し、御利用者様のストレスを案和して行く。	オンラインの活用による遠方家族様との面会や感染対策を徹底して外部との交流行事等行う。	3ヶ月
4	35 (13)	当該施設の場所が、土砂災害警戒区域である事を理解した上で、避難、誘導が滞りなくスムーズに行える必要がある。	災害時の職員の動きと御利用者様の安全確保の周知徹底に努める。また、災害の程度に応じて、自宅に避難できるなどに家族様に協力していただけるようにしておく。	歩行可能な利用者と共に避難指定場所とされている体育館までの道のりを確認しながら、どんな場所で、何を持参すればいいかを実証する 合わせて年2回の事業所内防火、防災訓練を実施する。	3-12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。